

原子状水素(水素水) その2

酸素が無いとヒトは5分でこの世とオサラバですし、水が無いと1週間でオダブツです。

命を支えるのは「**酸素と水**」です。しかし、この酸素は、46億年の地球誕生から存在していたのではなく23億年後ごろから急増した。氷河期から温暖化に向かう中で光合成を行う生物が急増し、大気中の酸素が急増したのです。そして、まもなく酸素を取り込む動・植物等の真核生物が繁殖し、炭酸ガスを放出するなどして、今の大気酸素濃度21%に安定した。

ヒトにとって酸素はエネルギー産生の為に無くてはならないものですが、果物や釘が錆びるように細胞においても一面猛毒であります。

その活性酸素発生の誘因として、ハウスダストや花粉、ウイルスや細菌、化学物質、紫外線や放射線、ストレスなどがあります。そして、更に「水道水」です。

水道水は、殺菌のために塩素が含まれています。そのため酸化力が著しく高く酸性雨の次に錆びを生じ易い酸化障害水の種類です(右図)。

体液の酸化還元電位はマイナス250mVに対し、水道水は+600~900mVと酸化状態です。

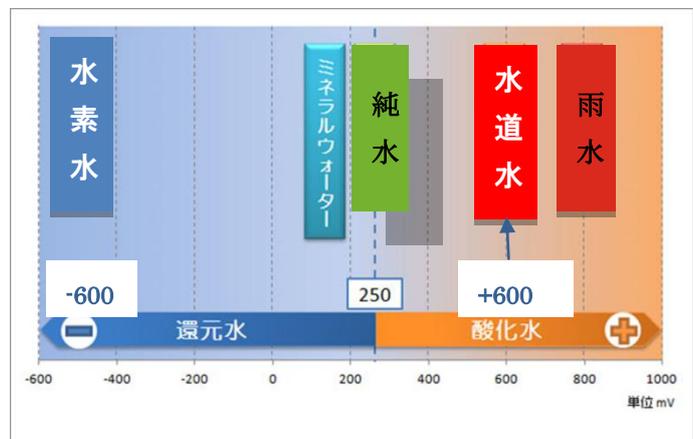
塩素を含む水道水は、からだを錆びさせるということです。

ですから、薬の服用を水道水で飲むと薬理効果を半減にします。調理にしても、コメの中のビタミン類も半減、野菜や果物の栄養分も減少することになります。

腸内細菌は免疫力やビタミン、ホルモンな、エネルギーを生成し、胃腸の働きは健康の基本です。腸内細菌には善玉菌(乳酸菌やビフィズス菌)と悪玉菌(ウェルシュ菌、大腸菌など)がありますが、**善玉菌は嫌気性**で酸素や酸化物がある環境では生きられず、水素を好みます。一方、悪玉菌は、酸素を利用しますので、水道水で増殖し、発がん性があり悪臭便・屁臭を生じるニトロソアミンやフェノール・インドール、さらに猛毒のアンモニアや硫化水素を発生します。

大腸がんを始め、肝臓や腎臓に負担をかけ、免疫力低下を来します。

医療費率(対国民所得)は、昭和末(4%)から30年後の平成24年の12%と約3倍となり**国家財政**を圧迫しております。自分の健康は自分で守らなくてはなりません。その意味でも平生飲んでいる水について最も留意するものです。



参考：(林光秀「現代医学の七つの大罪」1997)

2016.9/16

文責 藤田長久